

WEB 連載

Entertainment・Essay

木村奈保子の音のまにまに

Written By NAHOKO KIMURA

看板ではなく感性で聴くことから文化が高まる

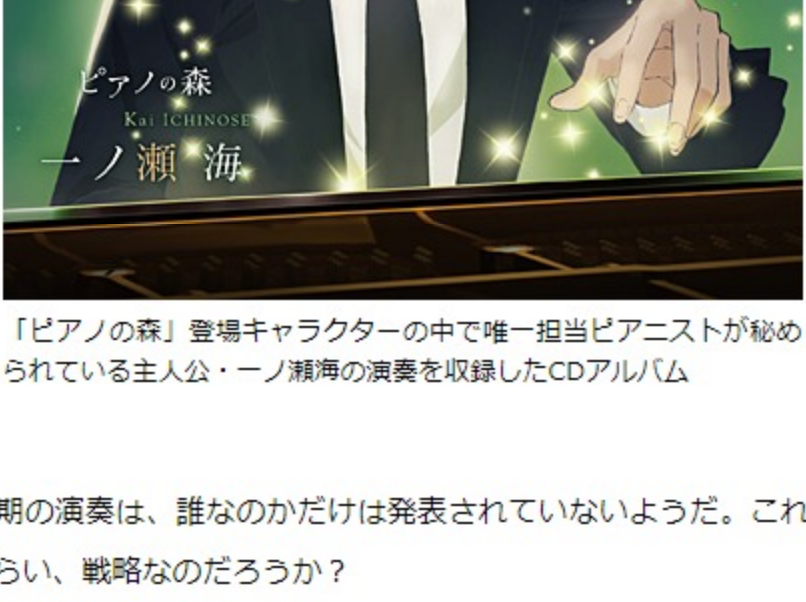
木村奈保子の音のまにまに | 第8号

自分の知らない譜か注目されると、「何者？」という怪しい気分が怖い。「あの人は〇〇大学の優秀な……」「あの人は、〇〇財団の塾生で……」など、ちょっとしたプロフィールが明瞭されたところで、安心するようなどころがある。名利交換会が重要なのも、日本人らしい看板社会と密着だろう。昨今は、ワイドショーブームでコメント交換会・大学の教授や弁護士などの看板があり、エリート指向気味だが、専門的な内容が必ずしも生かされていないミスキャストも多い。

「この方は、とても偉い方なんですよ」と肩書だけで紹介されると、私のような奴い？で生きているタイプは、何についての「偉い方」なのか、たじろく。音楽を聴いても、映画を見ても、自分が良いと感じるかどうかよりも、演奏者がどここの有名な人らしいとか、海外のどこかで賞を受賞した映画らしいなど、とまかく看板ありきで、人を判断するタイプも少なくない。他人に対する尊敬や敬意は大切だが、権の王様に対する付度やおべっかは、不快だ。そこには、心がないのである。

また、その人の演奏を聴いたことがない、まだ一度も、その映画や演劇を見たことがない、あるいは、見聞きしたことはあるが、いまい自分ではよくわからないなど、音やアートを自ら感じる習慣が、日本人は薄めなのかもしれない。

最近、一色まこと原作の音楽アニメ「ピアノの森」がTVアニメ化されたが、主人公の少年が音楽界で活躍人物の吹き替え演奏が、そっくりするほど、いい。これ、推の演奏なのだろう、とついつい願わくば、オーディションで選ばれたばかりの新進ピアニストや、人気の歌手が見事な演奏で、漫画の人気を上回る勢いだ。



「ピアノの森」登場キャラクターの中で唯一音楽ピアニストが扮いられている主人公・一ノ瀬孝の演奏を収録したCDアルバム

ただし、主人公の青年期の演奏は、誰なのかは発表されていないようだが、これが、固定観念は邪魔だという観作者たちののらひ、戦略なのだろうか？

森に住む森の主人公が、音の出ないはずの古いピアノの前に座り、耳で覚えた曲を、軽やかに弾く瞬間……！彼が弾いた「茶色の小径」といえば、私が最も好きな映画「グリーン・ミラー物語」で知られる。そもそも民謡をグリーン・ミラーがアレンジしたヒット。ジャズのスタンダードナンバーとなった。

少年の演奏は、明らかにジャズではないのだが、美しい音色、鳥や動物に囲まれた中で、完全にスイングしている。これはまさに、神演奏か？いや、描かれた少年のドラマとマッチしているからこそ、タイムミンクの良さが演奏もききたっているのかもしれない。こんな相乗効果が見られるアニメ映画のちらは、なかなかない。

かくして、この森に住む少年と、対象的なエリート家庭のライバル少年との友情関係、隠された過去を持つ音楽の先生もからみ、物語が展開していく。

主人公の少年は、そもそも森の向こうにある下層階級のような街で、クラシック音楽とは無縁の貧困家庭に育ち、森に捨てられたピアノをおもちゃ代わりに生きてきた。そのピアノは、少年が弾いたときしか音が出ない。演奏は、この1曲だけで別世界に連れていかれるほど、魅力的なサウンドだ。しかし彼の才能を真に驚くには、教育が必要で、一流の先生に学べる環境などはまったく望めない。

この原作となる漫画家は、二人の男子を登場させ、「野生育ち」と「エリート育ち」の対象的な環境で描き分けている。これは、私が愛唄してきたアメリカ映画に例えらる。まさに環境から、教育を受けられなかった黒人と戦い代わら恵まれている白人エリートとの相違として表れることができる。

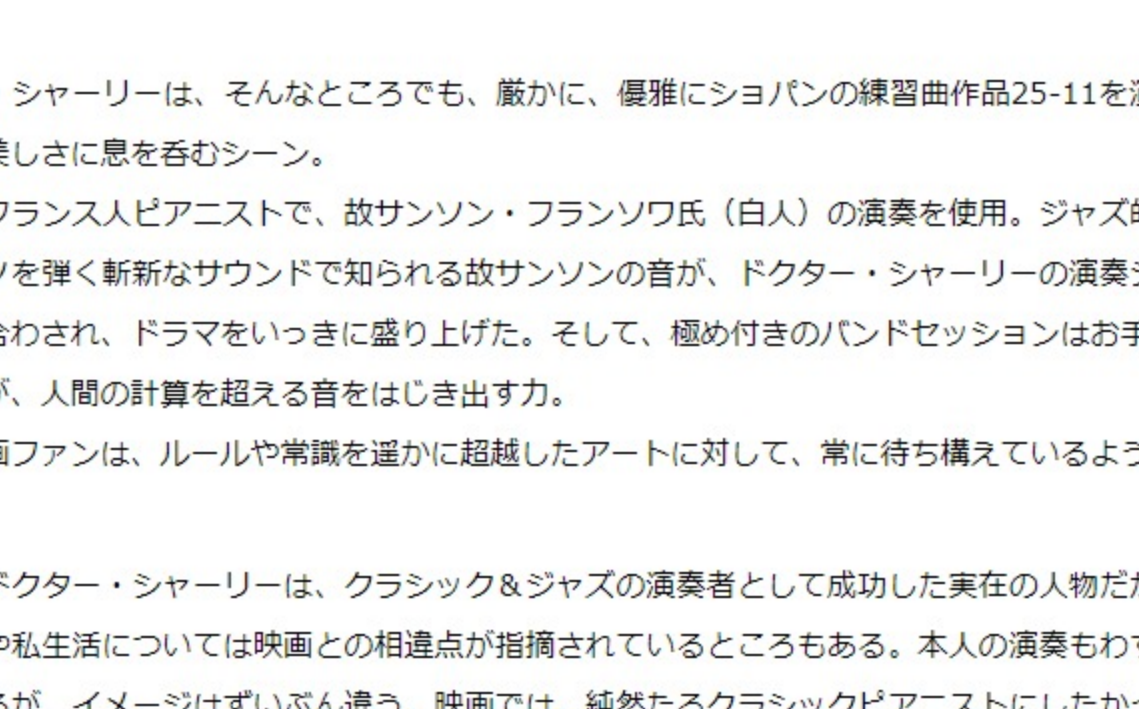
あえて書かうなら、上野千鶴子教授が東大の入学式でスピーチした、「あなたちが書かれたピアノをおもちゃ代わりに生きてきた。そのピアノは、少年が弾いたときしか音を出ない。演奏は、この1曲だけで別世界に連れていかれるほど、魅力的なサウンドだ。そして、逆に野生の少年は、型にはまらない生き様で、教育や勉強では行けないところにはばたける。大きな羽根を持ち合っているのか……」。

そういえば、今年アカデミー賞を受賞した「グリーンブック」の主人公も、恵まれた環境とは真逆なかった黒人のピアニストだが、たまたま賞された家庭で、音楽の才能を高く機会を考られたという設定だ。



黒人とはいえ、環境がクラシック畑ということもあって、天才扱いの人気ピアニストとして、ツアーに招聘される。しかしその演奏が、上流階級の白人たちから認められても、黒人という肌の色で理不尽な差別を受けていく。

それが、タイトルにある「黒人が旅行するための特別な案内本、グリーンブック」の意味だ。宿泊ホテルだけでなく、コンサート、パーティの主催であっても、レストランや洗面所は白人と黒の区別を強いられた環境。それでも怒りを覚えるのは、あくまでエレガントなクラシック演奏たるゆえん。



一方、ドライバーとして雇われた白人は、いくら暴力で、仕事にあふれたやさくれでも、人間として普通の権利が与えられている。こうした人種や立場の環境の中で、二人は互いに音楽ツアーを展開するの

か？

主人公ドクター・シャリーは、意外にも足を踏み入れたことがない環境＝ライブラリを初めて訪ねるシーンが印象的。そこは、黒人バーのブルース&ジャズの演奏で、客が楽しく踊るところ。

ドクター・シャリーは、そんなところでも、厳かに、優雅にショパンの練習曲作品25-1-1を演奏する。圧倒的な美しさに息を呑むシーン。劇中、フランス人ピアニストで、故ザンソン・フランソワ氏（白人）の演奏を使用。ジャズ的なクラシックピアノを弾く斬新なサウンドで知られる故ザンソンの音が、ドクター・シャリーの演奏シーンに見事に重なる。ドラマでいっけに盛り上げた。そして、極めて付きの1つセッションはオマンのもの。野生の血が、人間の計算を超える音をはき出す力。音楽や映画ファンは、ルールや常識を遥かに超越したアートに対して、常に待ち構えているようだ。

ちなみにドクター・シャリーは、クラシック&ジャズの演奏者として成功した実在の人物だが、本作の時代背景や私生活については映画との相違点が指摘されているところもある。本人の演奏もわずかにネットで聴けるが、イメージはずいぶん違う。映画では、純然たるクラシックピアニストにしたかったのだろう。

また、イタリア移民の白人ドライバーは、家族に囲まれながらも、教養のない環境で過ごしたらしく、ツアー前から妻への愛情を示す表現がわからず、アチーブメントのドクター・シャリーから、美しい言葉を学ぶ。二人は互いにいいものを補い合い、友情を育む。アメリカ映画に多い「相棒もの」（ディ・ンステル）のわかりやすいスタイルだ。

これまでは、白人の観客堂に無難に肌の色違う黒人を雇った、権力も教養もない黒人は、暴動を起こすなど、差別をエスレートに無難にすることも多かったが、本作では黒人と白人の関係で、たまたま人間が、良い環境を考えられたという珍しいパターンで、差別を受けながらも暴力には訴えない、上品なクラシックの音楽家として描かれる。ここがポイントだ。

日本の社会では、民族国家アメリカにある人種差別の歴史をどこまで興味を持ち、理解できるのかはわからないが、それによって映画に対する考えや人に対する思いが大きく異なるだろう。我々、洋画中心に映画に慣れるものは、人種やそのほかのマイノリティについて、その多様性を学び続けている。

生まれながらの看板や恵まれた環境を持たない者の才能とスキルが現実には、もっと評価されているはず。周囲の評価より先に、自分の感性で判断する習慣が広がれば、文化はもっと高まるだろう。



映画「グリーンブック」公式サイト: <https://gaoga.ne.jp/greenbook/>

NAHOK Information

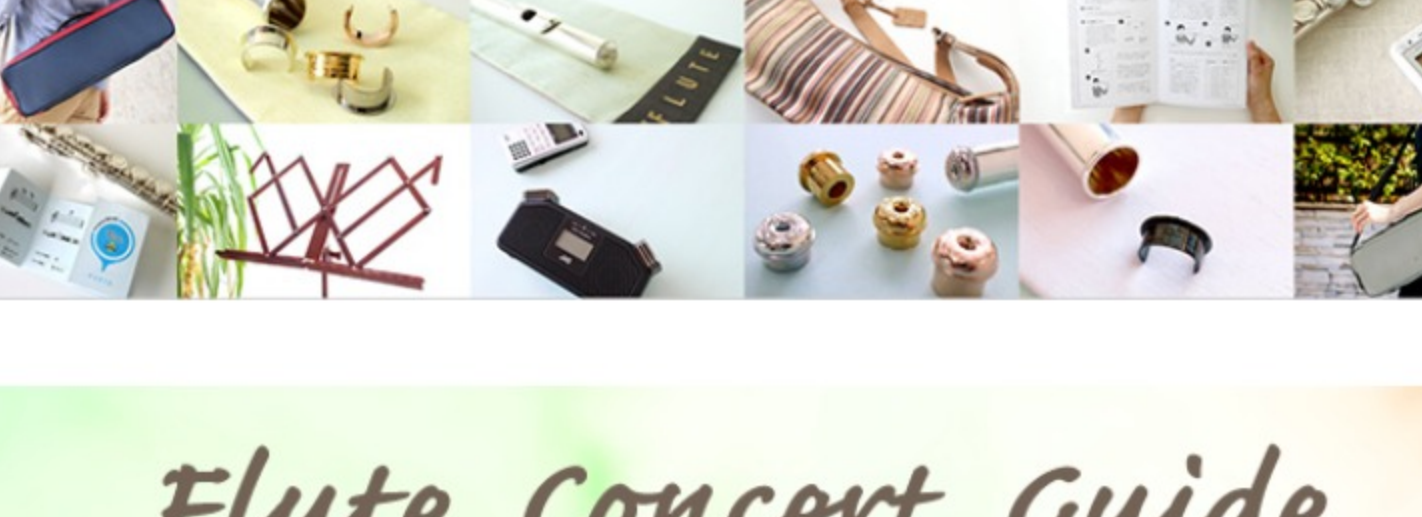
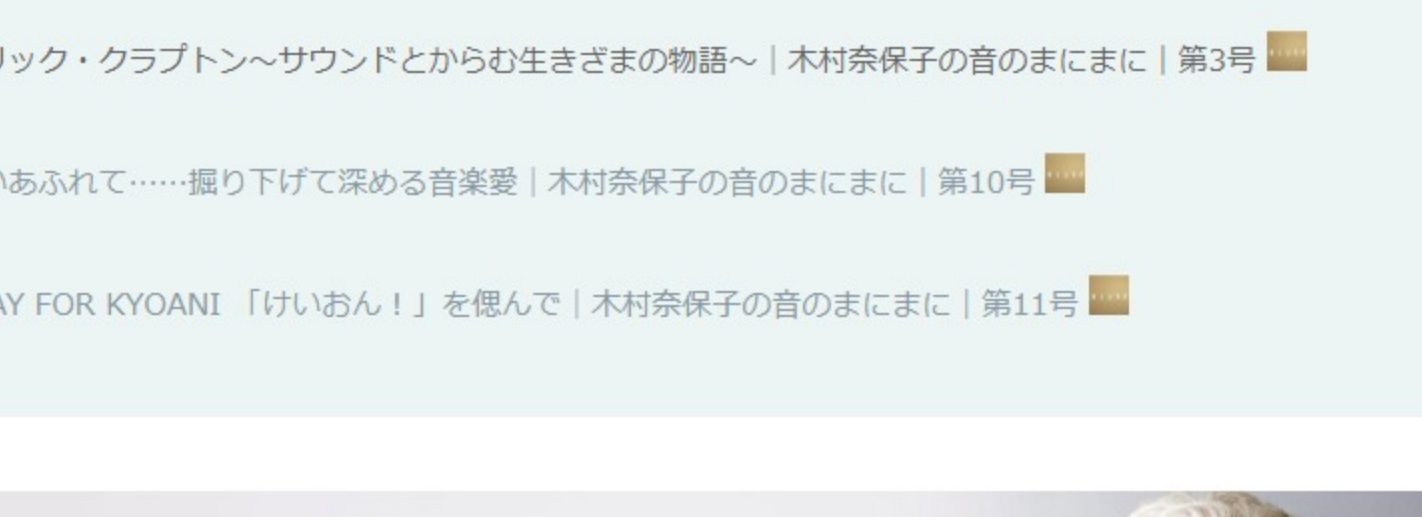
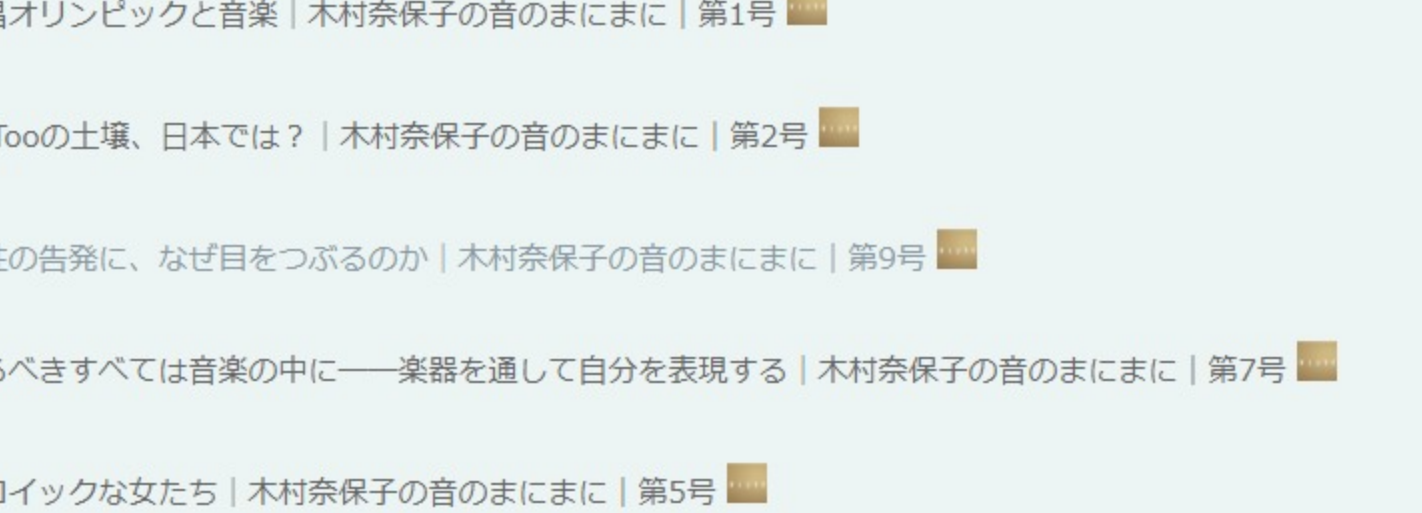
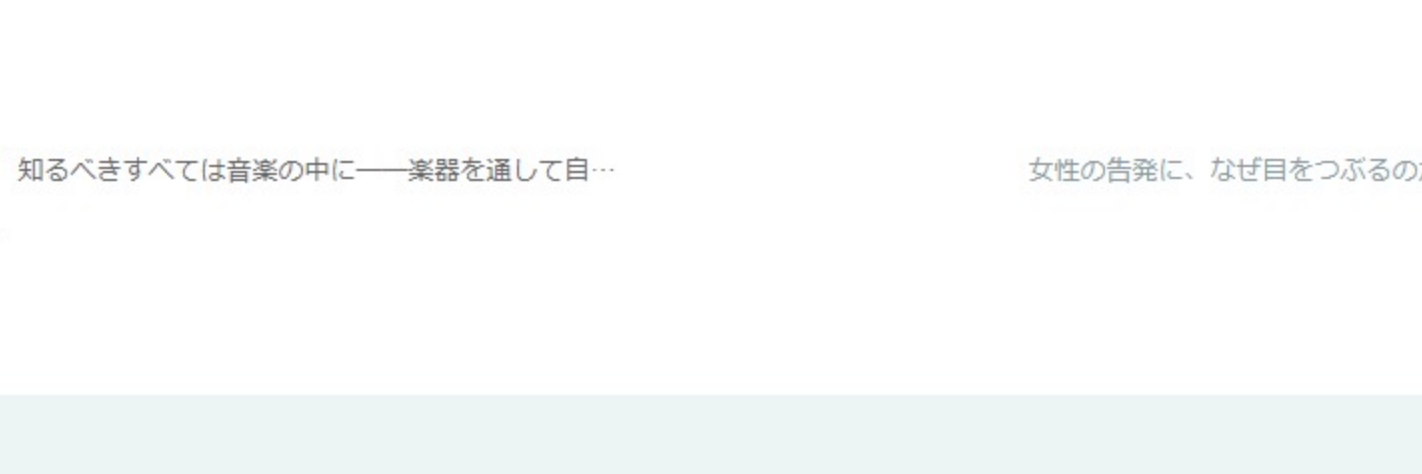


木村奈保子さんがプロデュースする「NAHOK」は、欧州製特殊ファブリックによる「防水」「通気」「電磁吸収」機能の楽器ケースで、世界第一級の演奏家から愛好家まで広く愛用されています。 <http://nahok.com>

NEW PRODUCTS

NAHOKは、フランス、ドイツ、USAテキサス、ボストン、香港など海外でも販売しています。特に、台湾のAEOULUSミュージックでは、台湾全土に渡ってNAHOKケースを展開中。日本では、涼しいスタイル系が人気でも、米中では赤や黒などの濃い色が人気だそうです。*6月より価格アップを予定。ご購入は今がチャンス！

リュックバスコプリアーファースガード「Ludwich/vf」



THE FLUTE お知らせ



THE FLUTE vol.174
THE FLUTE | バックナンバー
FLUTE CLUBの会・更新はこちら
フルート楽譜一覧

ENTRY 投稿・登録
>> THE FLUTE アンケート一覧へ



Brand guide
メロノムとムスリ
付き合うと楽器がうまくなる
KORG KRM-3

クラシック音楽の新たな魅力を体験してみませんか？
フルート奏者 大勢集

